

令和六年度

全国吟詠コンクール決勝大会

来場歓迎・入場無料

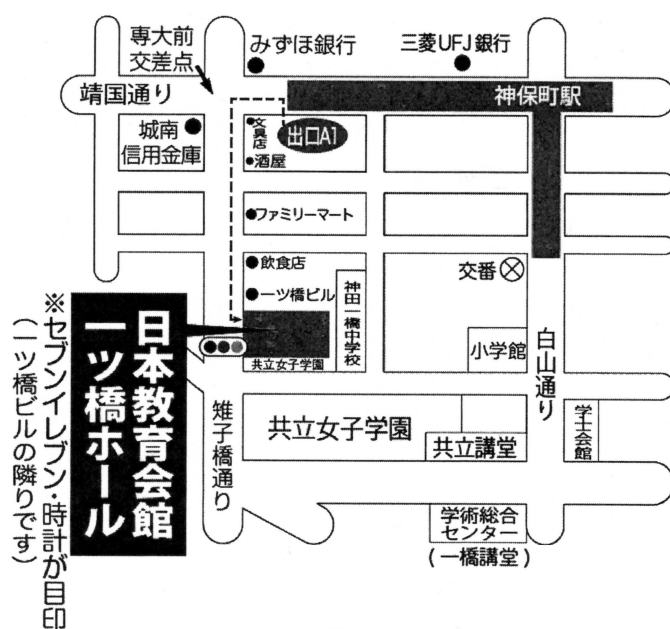
後援

N 東京文化
H 京都庁
K

- とき 令和6年9月16日（月・祝）
午前9時開場・午前9時30分開始
- ところ 日本教育会館・一ツ橋ホール（裏表紙参照）

主催

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会



日本教育会館・一ツ橋ホール

〒101-0003
東京都千代田区一ツ橋二丁目6番2号 TEL. 03 (3230) 2831
(最寄駅) ●地下鉄都営新宿線・三田線・東京メトロ半蔵門線
神保町駅A1出口より徒歩約5分
●東京メトロ東西線 竹橋駅より徒歩約5分

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-4-10虎ノ門35森ビル7階
電話 (03) 6721-5950 (代表)
FAX (03) 6721-5960

大会次第

一、開会の辞	一、競吟・一般一部
一、国歌斉唱	一、幼年・少年・青年の部・一般一部
一、財団会詩合吟	審査結果発表
一、財団代表挨拶	一、競吟・一般三部
一、競吟実施要項説明	一、競吟・一般二部
一、審査委員紹介	一、審査講評
一、競吟・幼年の部	一、審査結果発表
一、競吟・少年の部	並びに入賞者表彰
一、競吟・青年の部	一、閉会の辞

(注意) 一、役員集合 午前八時三〇分
二、出演者集合 午前九時〇〇分 時間厳守

吟剣詩舞道憲章

詩歌は人の心の表現であり、すぐれた詩歌は人類文化の遺産である。われわれの先達は、この詩歌を吟じ、その吟により舞うことを考え、芸としての向上進歩を目ざして精進努力を重ね、吟詠・剣舞・詩舞というわが国独自の高雅な芸道を育てあげた。

吟剣詩舞道は礼と節を、その心とする。詩歌に親しんで情操を高め、日本民族の心を探究しながら自己の陶冶を志向するこの芸道こそ、わが国の精神文化の高揚に不可欠のものである。

われわれは、この価値ある吟剣詩舞道を受け継いだことに大きな誇りをもつと同時に、各人の研鑽と相互の協力によってますます斯道を隆盛に導く責任を果たさなければならない。しかも、その実践は、この芸道の心、すなわち礼と節の上にたたなければならない。その軌範として、この憲章を制定する。

昭和五十年一月十一日

財団法人 日本吟剣詩舞振興会

会長 笹川良一

ほか 役員一同

財団法人日本吟剣詩舞振興会会詩

世川良一作

朝に吟に舞うて心身を錬り
礼節持し来て互に真と養う
世界は一衆皆我友
願わくは斯道と興して人倫を正さん

世川良一書

一、基本姿勢

吟剣詩舞道を行なう者は、礼と節とを行動の軌範とし、日々、芸の研鑽と品性の陶冶に努める。

二、指導者の心構え

吟剣詩舞道を指導する者は、みずから師たるにふさわしい人格、識見を備え、指導全般にあたっては權威をもって臨む。

三、師に対する心構え

吟剣詩舞道を学ぶ者は子弟の礼節をわきまえ、秩序を堅持する。

四、分家・独立

吟剣詩舞道を行なう者が分家・独立する場合は、その組織を代表する者の許しを得る。

五、他流との関係

吟剣詩舞道を行なう者は他流の名誉を傷つけ、秩序を乱すような言動は厳に慎む。

六、吟剣詩舞道の普及向上

吟剣詩舞道を行なう者は、大衆性と芸術性とを併せもつ斯道の今日像を正しく伝え、特に青少年層における吟剣詩舞道の普及向上に努める。

七、吟剣詩舞道の目標と相互の協力

吟剣詩舞道を行なう者は、相互に協調、互譲の精神をもって斯道の普及振興に協力し、本会の認める姉妹団体とも動物有機体的団結をもつて日本の伝統に基づく国家社会の正しい発展に寄与する。

令和四年度

幼年の部 岩永 克衛（長崎）
少年の部 鈴木 愛琉（群馬）
青年の部 本田 陽彦（福岡）
一般一部 綿谷未由子（三重）
一般二部 高橋 恵子（福島）
一般三部 中村利江子（香川）
令和五年度
幼年の部 綿谷 奏音（三重）
少年の部 林 一希（大阪）
青年の部 東 瑞（大阪）
一般一部 荒崎 春奈（神奈川）
一般二部 伊藤 利博（愛知）
一般三部 草薙 賢三（香川）

令和六年度全国吟詠コンクール

決勝大会開催にあたって



（公財）日本吟剣詩舞振興会
会長 沼崎 富

よりいつそうの
吟道振興を

公益財団法人日本吟剣詩舞振興会主催による、令和六年度全国吟詠コンクール決勝大会が、本日ここに盛大に開催されますこと、まことに喜ばしいことと存じます。

ご来場の皆さまがたにに対し、深く敬意を表しますとともに、本大会のためにいろいろとご準備をいただきました大会役員のかたがたに対しまして深く感謝申し上げます。
吟詠は、老若男女だれでも気軽に楽しめる伝統芸道であると同時に、その芸を通して人の道、特に“礼と節”を教えるもの

であり、今日までの日本の民族精神の形成において大きな役割を果たしてきたばかりでなく、これからのわが国の精神文化の高揚においても大きな期待がかけられております。

この吟詠が、いまや全国的な規模で、一般はもとより、次代をになう青少年の間におきましても盛んになっておりますことは、まことに喜ばしいことであります。

本大会は、これら吟道に親しむ皆様に対し、日々研鑽の成果を競いあう場を与え、併せて、よりいつそうの吟道振興の資とするものであります。

出場者の皆さんにおかれては、日ごろの精進の成果を十分に発揮して、よりよい成績をおさめられるよう希望し、また、ご来場の皆さまにおかれましては、芸術的・音楽的に進歩した吟詠の今日像を正しく理解され、ひとりでも多くの人が斯道に親しむよう期待してやみません。

最後に皆さまのご健康を祈念して、私の挨拶といたします。

令和六年度全国吟詠コンクール決勝大会役員

大会会長

沼崎 徳

富

大会副会長

早淵 壽

大会実行委員

池内 賢二

吉田 将

魁桜

河野 鶴聲

宮川 紫朋

藤上 翔山

安田 水鈴

錦洲 鈴

入倉 昭星

藤本 誠堂

清水 遠藤

晃楓

鈴木 吟亮

田中 国臣

遠藤 伏尾

毘城

杉浦 英容

古川 壽泉

伏尾 毘城

高木 法洲

◎大会特別顧問

山岡 哲山

小幡 神叡

藤原 撰楠

矢萩 鳳祥

武田 禧洲

益中 鵬山

前島 昊龍

松岡 萌洲

野中 秀鳳

八代 輝靈

廣重 光風

日置 彩峰

杉浦 容楓

小野 光翠扇

山路 泰洲

横山 寿城

山内 正風

向山 侑吟

山本 賀陽

多田 正稔

多田 正満

八文字 剛洲

安永 江悠

青柳 芳寿朗

田中 岳藤

山口 華雋

横山 精真

◎大会参与

山本 兼正

黒田 秀月

後藤 月戈

齋木 彩染

星野 洲虹

佐々木 翠鵬

上久保 雪女

石井 桃苑

田中 竜真

飛田 野神藍

岡田 一穂

山田 伯峯

松永 悠楓

鈴木 啓仙

石川 春洋

星野 紫虹

志塚 心将

菱谷 彩佑

小林 北鵬

梶 風映

勝部 吼嶺

阿部 吟鳳

甕 経風

薦田 南尚

白男 川洲風

高橋 瑞祥

麻生 契春

三橋 吟煌

審査委員

◎審査委員長

徳田 寿風

特別審査委員

沼崎 富

審査委員

河野 鶴聲

藤原 光伶子

清水 正明

和田 彩楓

前山 紫峰

田畑 水姫

池田 菖黎

平成十七年度

幼年の部 伊達佳内子(東京)

少年の部 遠藤 衣恵(群馬)

青年の部 仲宗根 香(大阪)

一般一部 榮 葉子(沖縄)

一般二部 堀川 泰司(群馬)

一般三部 山内チヨコ(広島)

平成十八年度

幼年の部 西田 伽湖(山口)

少年の部 村上 佳(大阪)

青年の部 空 晴美(福岡)

一般一部 安藤 聖子(愛知)

一般二部 中山紀代志(富山)

一般三部 澤田 明穂(高知)

平成十九年度

幼年の部 東本 舞(岡山)

少年の部 竹田 麻美(大分)

青年の部 荒崎 春奈(神奈川)

一般一部 原 優子(兵庫)

一般二部 武 直子(岡山)

一般三部 廣瀬登志夫(石川)

平成二十年度

幼年の部 藤吉 瑞季(大分)

少年の部 森田 夏代(鹿児島)

青年の部 堂前 優子(大阪)

一般一部 向山 里水(熊本)

一般二部 平松美智子(岡山)

一般三部 横沼 邦男(山口)

平成二十一年度

幼年の部 佐藤 百恵(大分)

少年の部 渡辺 真生(福岡)

青年の部 藤井 真美(愛知)

一般一部 空 晴美(福岡)

一般二部 澤頭 翠(東京)

一般三部 松行 清子(福岡)

平成二十二年度

幼年の部 近藤 素弘(愛知)

少年の部 西田 伽湖(山口)

青年の部 恒成 育香(大分)

一般一部 向山 人水(熊本)

一般二部 林 潤子(東京)

一般三部 佐藤 弘子(福岡)

平成二十四年度

幼年の部 西田 陸人(山口)

少年の部 向山 諒一(熊本)

青年の部 荒崎有紀江(神奈川)

一般一部 山岡三子世(兵庫)

一般二部 樋口 康子(奈良)

一般三部 永井 節子(広島)

平成二十五年

幼年の部 西部千紗希(岐阜)

少年の部 佐藤 百恵(大分)

青年の部 井戸 隆裕(大阪)

一般一部 中野 博行(大阪)

一般二部 山田 守(大阪)

一般三部 白石多恵子(大分)

平成二十六年

幼年の部 西山 優花(広島)

少年の部 松葉 真緒(大阪)

青年の部 森田 夏代(鹿児島)

一般一部 西岡佐智世(大阪)

一般二部 堀 健次郎(福岡)

一般三部 神崎 建次(愛媛)

平成二十七年度

幼年の部 米澤 早智(長野)

少年の部 寺尾 琳子(香川)

青年の部 村上 佳(大阪)

一般一部 石川 千尋(福島)

一般二部 藤田 忠三(青森)

一般三部 松宮 弘亨(東京)

平成二十八年度

幼年の部 安念美葵子(滋賀)

少年の部 藤吉 瑞季(大分)

青年の部 北川 由紀(広島)

一般一部 宮本サリ(神奈川)

一般二部 中村利江子(香川)

一般三部 原 喜代美(東京)

平成二十九年度

幼年の部 木山 咲良(兵庫)

少年の部 西部千紗希(岐阜)

青年の部 綿谷未由子(三重)

一般一部 岩城 伸子(兵庫)

一般二部 玉越 律子(大阪)

一般三部 山田 守(大阪)

平成三十年度

幼年の部 原田 愛子(大分)

少年の部 原 光希(兵庫)

青年の部 松葉 朋実(大阪)

一般一部 石渡 千紘(愛知)

一般二部 富山 正一(大阪)

一般三部 中山 豈子(長崎)

令和元年度

幼年の部 宿利 壮平(大分)

少年の部 東 瑞(大阪)

青年の部 向山 諒一(熊本)

一般一部 藤井 真美(愛知)

一般二部 今村 満成(福井)

一般三部 山地 好信(香川)

令和三年度

幼年の部 阿部 尊生(東京)

少年の部 山中 七海(熊本)

青年の部 松葉 真緒(大阪)

一般一部 荒崎有紀江(神奈川)

一般二部 石田 義則(大分)

一般三部 竹内 芳子(岐阜)

<p>平成二年度</p> <p>幼年の部 宮本ロサリー（神奈川） 少年の部 田村 勇樹（大阪） 青年の部 菅 美恵子（兵庫） 一般一部 角地 慶子（福岡） 一般二部 滝田 主計（東京） 一般三部 白石 秀雄（東京）</p> <p>平成三年度</p> <p>幼年の部 後藤未由子（三重） 少年の部 宮本ロサリー（神奈川） 青年の部 小池 貴子（群馬） 一般一部 鈴木 久子（愛知） 一般二部 森本 治郎（岡山） 一般三部 岩谷 正義（大阪）</p> <p>平成四年度</p> <p>幼年の部 池田 拓真（奈良） 少年の部 笹本 若未（愛媛） 青年の部 松葉 和美（大阪） 一般一部 武田志津子（大分） 一般二部 間島 久巳（東京） 一般三部 小崎 定雄（愛媛）</p>	<p>平成五年度</p> <p>幼年の部 加藤 亜弥（愛媛） 少年の部 池田 拓真（奈良） 青年の部 鈴木 聖子（愛知） 一般一部 須藤 賢二（神奈川） 一般二部 上山 寿子（和歌山） 一般三部 渡辺 盛（東京）</p> <p>平成六年度</p> <p>幼年の部 中田 絢子（神奈川） 少年の部 沖野なつ子（兵庫） 青年の部 西岡佐智世（大阪） 一般一部 米本 敬子（岡山） 一般二部 藤原真佑美（大阪） 一般三部 平田 富子（岡山）</p> <p>平成七年度</p> <p>幼年の部 本田 皓子（兵庫） 少年の部 高木 早苗（山口） 青年の部 山岡 貴子（兵庫） 一般一部 照井あかし（東京） 一般二部 鈴木 順子（大阪） 一般三部 牧野 静江（兵庫）</p>	<p>平成八年度</p> <p>幼年の部 池田 篤朗（奈良） 少年の部 今 由香里（大阪） 青年の部 原 弦太郎（兵庫） 一般一部 矢野まつみ（和歌山） 一般二部 藤本 鉄郎（東京） 一般三部 青木 茂（静岡）</p> <p>平成九年度</p> <p>幼年の部 井戸 隆裕（大阪） 少年の部 楠本 友見（福岡） 青年の部 北野 晶子（大阪） 一般一部 大木津多代（兵庫） 一般二部 森田 智子（大阪） 一般三部 堤 久代（佐賀）</p> <p>平成十年度</p> <p>幼年の部 河野 良宗（福岡） 少年の部 西原麻里子（愛媛） 青年の部 宮本ロサリー（神奈川） 一般一部 山岡 貴子（兵庫） 一般二部 佐藤 弘子（福岡） 一般三部 岡本ヨシエ（栃木）</p>	<p>平成十一年度</p> <p>幼年の部 後藤 啓佑（三重） 少年の部 井戸 隆裕（大阪） 青年の部 山岡三千世（兵庫） 一般一部 尾崎 富美（大阪） 一般二部 松永真由美（三重） 一般三部 伊藤 昇（愛知）</p> <p>平成十二年度</p> <p>幼年の部 西田 陵（山口） 少年の部 河野 良宗（福岡） 青年の部 今 由香里（大阪） 一般一部 市古万起子（大阪） 一般二部 生方 照代（東京） 一般三部 山戸 康子（大阪）</p> <p>平成十三年度</p> <p>幼年の部 大原 侑実（東京） 少年の部 荒崎 春奈（神奈川） 青年の部 林 綾香（東京） 一般一部 長山 祝子（奈良） 一般二部 長谷川照子（愛知） 一般三部 馬場圭一郎（福岡）</p>	<p>平成十四年度</p> <p>幼年の部 西田 和樹（山口） 少年の部 後藤未由子（三重） 青年の部 鍋谷 明美（大阪） 一般一部 志田 香織（東京） 一般二部 中島 豊（奈良） 一般三部 桜井 進（東京）</p> <p>平成十五年度</p> <p>幼年の部 伊藤 雅采（愛知） 少年の部 長坂 理絵（愛知） 青年の部 池田 拓真（大阪） 一般一部 府川有紀子（神奈川） 一般二部 須藤 賢二（神奈川） 一般三部 松尾 泰輔（福岡）</p> <p>平成十六年度</p> <p>幼年の部 難波 初衣（兵庫） 少年の部 山本 純子（大分） 青年の部 奥村 由美（東京） 一般一部 土澤なぎさ（栃木） 一般二部 野島 繪未（東京） 一般三部 河島 末松（福岡）</p>
--	--	---	---	---

毛塚 静精	栗野 電暉	鈴木 海洲	久保田正峰
小林 岳章	寺山 天洲	山下 神燈	小峯 晃苑
丹治 独風	奥村 精暉	木村 風鶴	鈴木 洲玉
池田 嶺煌	熊木 雪洲		

〈県連代表〉

澤石 峯洲	高田 龍明	野村 岳粹	館岡 奥鵬
宮川 紫朋	穴戸 岳荘	高橋 瑞祥	上田 岳美
黒田 秀月	齋藤 心晃	池田 嶺煌	石井 桃苑
清水 錦洲	毛塚 静精	田中 国臣	小松 獅剣
飯田 報信	遠藤 晃楓	臼井 寛洲	松澤 天楓
北瀬 岳櫻	渡邊 皇洲	山本 演志	堀口 孝心
吉田 観心	山田 静将	山口 華雋	渡辺 絃山
芳倉 清峰	古川 壽泉	藤上 翔山	楠部 齋山
高木 法洲	佐藤 翔風	小林 涼風	徳田 寿風
松井 松聲	原田 瑞祥	柿内 岳正	河野 鶴聲
安部 洸霊	伊藤 翠鳳	藤本 誠堂	中武 玲星
向山 侑吟	日向美代峰	吉本 緑翠	

運 営 委 員

◎総務広報委員長	上久保雪女	梶原 麗修
同 副委員長	亀井 麗岳	林 煌月（医務）
同 委員	黒柳 誠心	
◎資材管理委員長	滝本 紫苑	
同 副委員長	藤田 霜晃	鈴木 誠敬
同 委員	荒井 剛嶺	
◎受付委員長	齋木 彩染	
同 副委員長	小倉 契秀	小谷野煌弘
同 委員	中山 彩操	
◎連絡委員長	石井 桃苑	
同 副委員長	土澤 美岳	宇井 修光
同 委員	柿 裳風	
◎舞台委員長	田中 竜真	

同	副委員長	鈴木 洲玉		◎詩文監査委員長	中野 吟紫	加藤 契琵琶
同	委員	多嘉良誠良	湊 紀器	同 副委員長	伊藤 契麗	
◎賞典委員長	熊木 雪洲			◎接待委員長	星野 洲虹	星野 紫栄
同 副委員長	武藤 嶺栄	長谷川煌研	垣下 真萩	同 副委員長	中嶋 美声	
◎会場委員長	佐々木翠鵬			◎集計委員長	高橋 嶺香	古賀 佳嶺
同 副委員長	小峯 晃苑	三枝 契憲	須藤 紘誓	同 副委員長	土方 晃鶴	西岡 緑優
福田 劔鵬				同 委員	長谷川稀泉	
◎音響委員長	岡田 一穂			◎賞状作成委員長	石井 錦文	齋藤 風瑛
同 副委員長	湯口 岳政	栗本 溪山		同 委員	石井 嶺亮	縣 鷹雪
同 委員	和田 尤堂	木屋 萩優				
◎司会委員長	田中 国臣		石川 春海	◎大会本部事務局	大田 直樹	
同 副委員長	丹治 独風	今村 契鉅		事務局 長	大塚 政暢	
同 委員	大山 宗鵬			事業課 長	森谷 文子	
◎計時委員長	山田 伯峯			総務課 員		
同 副委員長	門倉 香江	秋山 精正				

全国吟詠コンクール決勝大会優勝者一覧表

昭和四十四年度	少年の部 綿引 文子 (茨城)	昭和五十一年度	青年の部 梶川梨江子 (広島)	青年の部 北岡 京子 (奈良)	少年の部 松葉 富美 (大阪)	幼年の部 山田 美和 (広島)
青年の部 三好 紀夫 (大阪)	昭和四十五年度	青年の部 田畑 一子 (大阪)	一般一部 小宮千代香 (大阪)	青年の部 伊藤美智子 (徳川)	青年の部 伊藤美智子 (徳川)	少年の部 広瀬 貴子 (大分)
少年の部 河野 淳子 (福岡)	昭和五十二年度	少年の部 木村 昌弘 (大阪)	一般一部 瀧川田鶴枝 (千葉)	一般一部 北瀬くみ子 (石川)	青年の部 白井万起子 (大阪)	青年の部 白井万起子 (大阪)
青年の部 志茂野博善 (静岡)	昭和四十六年度	青年の部 和田奈緒美 (愛知)	少年の部 河原 由紀 (熊本)	一般一部 高久田 充 (福島)	一般一部 前重 興亮 (大阪)	一般一部 前重 興亮 (大阪)
少年の部 和田奈緒美 (愛知)	昭和四十七年度	一般一部 西 栄 (長崎)	青年の部 河野 淳子 (福岡)	一般一部 佐々木 豊 (広島)	一般一部 野田マサ子 (福岡)	一般一部 野田マサ子 (福岡)
青年の部 西川 多恵 (愛媛)	昭和四十七年度	一般一部 西川 多恵 (愛媛)	一般一部 北岡 京子 (奈良)	昭和六十年度	昭和六十年度	昭和六十年度
昭和四十七年度	少年の部 青木 重子 (徳川)	昭和五十三年度	一般一部 久保 晴美 (奈良)	幼年の部 早川 貴子 (群馬)	昭和六十一年度	昭和六十一年度
青年の部 伊藤 良子 (香川)	昭和四十八年度	少年の部 今中 彰子 (岡山)	一般一部 太田 誠 (宮崎)	少年の部 田沢 淳子 (徳川)	昭和六十二年度	昭和六十二年度
昭和四十八年度	少年の部 山下佐登子 (福岡)	青年の部 青木 重子 (徳川)	青年の部 堀井 良美 (岐阜)	少年の部 八代 美恵 (宮崎)	平成元年度	平成元年度
青年の部 荘司 愛 (茨城)	昭和四十九年度	一般一部 佐々木司郎 (京都)	一般一部 池田 功 (東京)	一般一部 奥村 愛 (東京)	幼年の部 堂前 優子 (大阪)	幼年の部 堂前 優子 (大阪)
昭和四十九年度	少年の部 岩崎貴代美 (東京)	一般一部 牧野 静江 (兵庫)	一般一部 岸田 蔓子 (大阪)	一般一部 松浦 節子 (大阪)	少年の部 西岡佐智世 (大阪)	少年の部 西岡佐智世 (大阪)
青年の部 赤坂 綾子 (大阪)	昭和五十年度	昭和五十四年度	昭和五十八年度	昭和五十八年度	青年の部 宇井 久絵 (千葉)	青年の部 宇井 久絵 (千葉)
昭和五十年度	少年の部 八代 美恵 (宮崎)	少年の部 武藤 称 (長崎)	少年の部 梶野 洋子 (福岡)	昭和六十一年度	一般一部 坂田 昭 (京都)	一般一部 坂田 昭 (京都)
青年の部 園山 順子 (福岡)	昭和五十一年度	一般一部 田畑 一子 (大阪)	一般一部 戸田 高子 (山梨)	昭和六十二年度	一般一部 板谷加代子 (岡山)	一般一部 板谷加代子 (岡山)
	昭和五十二年度	一般一部 西村 茂 (京都)	一般一部 大森加寿子 (香川)	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和五十三年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和五十四年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和五十五年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和五十六年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和五十七年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和五十八年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和五十九年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和六十年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和六十一年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和六十二年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和六十三年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和六十四年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和六十五年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和六十六年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和六十七年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和六十八年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和六十九年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和七十年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和七十一年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和七十二年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和七十三年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和七十四年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和七十五年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和七十六年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和七十七年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和七十八年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和七十九年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和八十年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和八十一年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和八十二年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和八十三年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和八十四年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和八十五年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和八十六年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和八十七年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和八十八年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和八十九年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和九十年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和九十一年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和九十二年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和九十三年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和九十四年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和九十五年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和九十六年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和九十七年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和九十八年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和九十九年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度
	昭和一百年度	昭和五十四年度	昭和五十九年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度	昭和六十二年度

142	141	140	139	138	137	136	135
藤本龍二	西京子	佐野誠樹	井川良得	得能あけみ	内山寛子	安孫子美佐子	正時賢二
長崎	福島	兵庫	茨城	愛媛	大阪	山形	道央
従軍行	絶句 (江碧にして)	時に憩う	時に憩う	壇の浦を過ぐ	峨眉山月の歌	西南の役 陣中の作	時に憩う

150	149	148	147	146	145	144	143
春藤薫於里	蠅川内初代	谷口宏明	土田絵里香	山村幸子	金堀孝行	庄多美子	眞鍋並樹
大分	大分	佐賀	神奈川	大阪	広島	兵庫	愛媛
時に憩う	西南の役 陣中の作	西南の役 陣中の作	壇の浦を過ぐ	西南の役 陣中の作	西南の役 陣中の作	夏日悟空上人の 院に題するの詩	西南の役 陣中の作

月刊『吟剣詩舞』ご購入のお願い
月刊誌『吟剣詩舞』は、指導者および一般愛好者の皆さんに不可欠の吟剣詩舞道界の幅広い情報誌として、また、教養誌として発行されています。
購読料は年間五、〇〇〇円(送料込)です。お申し込みは、公益財団法人日本吟剣詩舞振興会事務局『吟剣詩舞』係あて、購読料を添えてお申し込み下さい。どなたでも購読できます。どうぞ、お気軽にお申し込み下さい。

153	152	151
佐藤正美	丸山直子	寺井修三
香川	長野	長崎
従軍行	絶句 (江碧にして)	西南の役 陣中の作

令和六年度全国吟詠コンクール指定吟題	
●幼年・少年の部	●青年・一般の部
(絶句編)	(絶句編)
①九月十日 (菅原 道真)	①時に憩う (良 寛)
②富士山 (石川 丈山)	②大楠公 (徳川 景山)
③山行同志に示す (草場 佩川)	③壇の浦を過ぐ (村上 仏山)
④桂林荘雑詠諸生に示す(その二)	④従軍行 (王 昌 齡)
⑤弘道館に梅花を賞す (徳川 景山)	⑤峨眉山月の歌 (李 白)
⑥早に白帝城を發す (李 白)	⑥絶句(江碧にして) (杜 甫)
⑦菊 花 (白居易)	⑦佳賓好主 (佐藤 一斎)
⑧江南の春 (杜 牧)	⑧西南の役陣中の作 (佐々 友房)
⑨春 夜 (蘇 軾)	⑨重ねて楓橋に宿す (張 継)
⑩偶 成 (朱 熹)	⑩夏憶王人の院煙する詩 (杜 荀 鶴)

令和七年度全国吟詠コンクール指定吟題	
●幼年・少年の部	●青年・一般の部
(絶句編)	(絶句編)
①九月十日 (菅原 道真)	①山の夜 (嵯峨 天皇)
②富士山 (石川 丈山)	②武野の晴月 (林 羅山)
③山行同志に示す (草場 佩川)	③三樹の酒亭に遊ぶ (菊池 溪琴)
④桂林荘雑詠諸生に示す(その二)	④元二の安西に便するを送る (王 維)
⑤寒 梅 (広瀬 淡窓)	⑤汪倫に贈る (李 白)
⑥春 曉 (新島 襄)	⑥除夜の作 (高 適)
⑦早に白帝城を發す (李 白)	(続絶句編)
⑧江南の春 (杜 牧)	⑦凱 旋 (乃木 希典)
⑨春 夜 (蘇 軾)	⑧楠公を詠す (日柳 燕石)
⑩偶 成 (朱 熹)	⑨江 雪 (柳 宗 元)
	⑩己亥の歳 (曹 松)

令和六年度全国吟詠コンクール決勝大会実施要項

(1) このコンクールは、わが国の伝統芸道である吟道に親しむ一般並びに青少年に、日ごろの吟道精進の成果を競う場を与えると同時にすぐれた吟詠家を発掘し、これを表彰して吟詠の向上と普及、発展を図ることを目的とし、この「全国吟詠コンクール実施要項」に基づいて実施する。

(2) コンクールは、左の六部門に分けて行うものとする。

区分	幼年の部	少年の部	青年の部	一般一部	一般二部	一般三部
資格	12才未満	12才以上 18才未満	18才以上 35才未満	35才以上 55才未満	55才以上 75才未満	75才以上

(いずれも年令は令和六年四月一日現在とする)

(3) コンクールの出場者は公益財団法人日本吟剣詩舞振興会（以下「財団」と省略）が全国八地区連絡協議会に委嘱して行われた(4)項の予選大会に出場して入賞し選出されたものであり、「プログラム」に記載された氏名者以外のとび込みは許されない。
尚、少壮吟士として表彰された者はこのコンクールに当初から

参加を認められない。

(4) 地区予選大会の名称とその包含地域

- I 北海道地区大会（道央・道南・道北・道東・北紋）
- II 東北地区大会（青森・秋田・岩手・山形・宮城・福島・新潟）
- III 東日本地区大会（山梨・群馬・栃木・茨城・埼玉・千葉・神奈川・東京）
- IV 中部地区大会（静岡・愛知・長野・富山・石川・福井・岐阜・三重）
- V 近畿地区大会（滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山）
- VI 中国地区大会（岡山・広島・山口・鳥取・島根）
- VII 四国地区大会（香川・愛媛・徳島・高知）
- VIII 九州地区大会（福岡・大分・佐賀・長崎・宮崎・熊本・鹿児島・沖縄）

〈一般二部〉

118	117	116	115	114	113	112
木戸 頌子	森田 章恵	瀧下 和雄	尾方美千代	甕 光生	市川 貴子	坂田 明
広島	愛知	高知	熊本	千葉	東京	広島
従軍行	壇の浦を過ぐ	峨眉山月の歌	重ねて楓橋に宿す	大楠 公	佳賓好主	西南の役 陣中の作

126	125	124	123	122	121	120	119
前重 興亮	赤塚 善夫	岩江 実	岡田 洋子	野間 澄子	井戸 清明	森脇 弥生	大野 広美
大阪	愛知	岡山	富山	広島	大阪	徳島	大分
時に憩う	従軍行	壇の浦を過ぐ	壇の浦を過ぐ	西南の役 陣中の作	西南の役 陣中の作	時に憩う	峨眉山月の歌

134	133	132	131	130	129	128	127
黒川 洋三	原田よし子	橋本三千代	佐々木政彦	阿部 容子	倉原 妙子	遠藤 昌成	東原 恵
広島	静岡	愛知	香川	道央	大分	東京	香川
壇の浦を過ぐ	佳賓好主	従軍行	従軍行	時に憩う	壇の浦を過ぐ	西南の役 陣中の作	峨眉山月の歌

96	95	94	93	92	91	90	89
日高由美子	藤原英輔	胡中重俊	小池義行	磯村秀雄	赤星キミエ	小倉喜久男	前多薫子
広島	兵庫	広島	東京	愛知	愛知	東京	道央
従軍行	重ねて楓橋に宿す	従軍行	重ねて楓橋に宿す	峨眉山月の歌	重ねて楓橋に宿す	絶句 (江碧にして)	西南の役 陣中の作

104	103	102	101	100	99	98	97
俣岡文明	浮津美津恵	川口照幸	本村忍	池田弘隆	阿部松枝	松田みち子	和久田富代
山形	広島	佐賀	大阪	香川	長野	兵庫	静岡
大楠公	壇の浦を過ぐ	夏日悟空上人の院に題するの詩	夏日悟空上人の院に題するの詩	西南の役 陣中の作	従軍行	壇の浦を過ぐ	時に憩う

111	110	109	108	107	106	105
青木昭男	馬場美千枝	伊藤 顕	竹川いつ子	中村恭子	神東伸任	尾崎安彦
宮崎	千葉	千葉	香川	広島	愛媛	大阪
壇の浦を過ぐ	壇の浦を過ぐ	従軍行	重ねて楓橋に宿す	壇の浦を過ぐ	従軍行	従軍行

(5) コンクールは次の審査要項によって実施する。

(イ) 審査委員は原則として本部役員と邦楽専門家によって構成され財団本部理事会で決定する。

(ロ) 出吟順は申込べ切後厳正公平な抽選で決定した「プログラム」順番通りとする。変更は特別の事由に基づき、大会会長が認めたものでないかぎり許されない。ただし、それも出場部門の競吟実施中に限られる。

(ハ) 吟題はすでに発表された本年度指定吟題、幼年・少年の部十題、青年・一般の部十題から選び、届け出たものとする。

(ニ) 吟じ方は、まず司会者が出場者の番号・氏名・吟題を紹介し、出場者は財団指定「吟剣詩舞道伴奏集」(以下「指定伴奏テープ」という)の前奏を確認して吟じ始める(吟題は言わない)。出吟前後の敬礼は省略する。

(ホ) 吟詠時間は二分以内に吟じ終るものとする。

(ヘ) 指定伴奏テープの本数及び曲目は、あらかじめ届け出た本数及び曲目によるものとし、変更は認めない。

(6) 次の場合は失格とする。

(イ) あらかじめ届け出てプログラムに記載された吟題と異なる場合。

(ロ) 財団刊行の吟詠教本を読み方に基づいて統一され、本年度指定された詩文の読みと異なる場合。

(ハ) 吟詠の途中で絶句(つかえること)した場合。

(ニ) 二分を超えた知らせのベルが鳴った場合。

(ホ) プログラム記載の出吟順番に遅れた場合。

(ヘ) その他、審査委員長が失格と認めた場合。

(7) 成績の判定は「吟詠コンクール審査規定」(財団内規)によるものとし、発声(声質、技術)、調和、発音、詩心、態度の五項目とし、得点の多い者を上位者とする。上位同点の場合は審査委員長が各委員の意見を聞いて決定する。

(8) 審査の採点は次の各項にウエイトをおいて行う。

(イ) 声の美しさ、品性、洪さなどとともに発声の自然さ、声量の豊かさ、声の明瞭さ、節回しのよさがあるかどうか。

(ロ) 伴奏曲と調和(音程を含む)しているかどうか。

(ハ) 共通語アクセント(あたりを含む)及びガ行鼻音が正確かどうか。

(ニ) 詩情表現の的確さ、味があるかどうか。

(ホ) 舞台マナー、吟詠マナー、社会人としてのエチケットが備わっているかどうか。

- (9) コンクール進行中の拍手、声援、私語雑談及び大会本部許可の報道関係者並び記録班以外の会場内での写真撮影、ビデオテープ録画及びテープレコーダー録音は禁止する。
- (10) 本コンクールにおいて財団が撮影した写真や映像については、財団が発行する雑誌、公式ホームページ及びテレビ放映などにて使用する場合がある。
- (11) 入賞者表彰は表彰式典の席上行われ、入賞者数と表彰は左の如くとする。
- (イ) 入賞者数は左記の通りとする。
- (ロ) 出場者には参加賞を授与する。
- (ハ) 各部優勝者は第五十四回全国吟剣詩舞道大会に於て、全国コンクール優勝者として出演するものとする。
- (ニ) 各部入賞者に、次の賞を送る。
- 〈幼年の部〉
- 一位 文部科学大臣賞・会長賞・金メダル・NHK杯
 - 二位 会長賞・銀メダル
 - 三位 会長賞・銅メダル
 - 四位～五位 会長賞
- 〈少年の部〉

- 一位 文部科学大臣賞・会長賞・金メダル・NHK杯
 - 二位 会長賞・銀メダル
 - 三位 会長賞・銅メダル
 - 四位～五位 会長賞
- 〈青年の部〉
- 一位 文部科学大臣賞・会長賞・金メダル・NHK杯
 - 二位 会長賞・銀メダル
 - 三位 会長賞・銅メダル
 - 四位～七位 会長賞
- 〈一般一部〉
- 一位 文部科学大臣賞・会長賞・金メダル・民放杯
 - 二位 会長賞・銀メダル
 - 三位 会長賞・銅メダル
 - 四位～八位 会長賞
- 〈一般二部〉
- 一位 文部科学大臣賞・会長賞・金メダル・民放杯
 - 二位 会長賞・銀メダル
 - 三位 会長賞・銅メダル
 - 四位～九位 会長賞

〈一般三部〉

66	紀野実知子	静岡	壇の浦を過ぐ	
67	松浦律子	徳島	夏日悟空上人の院に題するの詩	
68	西岡悦子	大阪	壇の浦を過ぐ	
69	渡辺良夫	岐阜	時に憩う	
70	堀内京子	静岡	壇の浦を過ぐ	
71	吉田秋良	兵庫	峨眉山月の歌	
72	塩田節子	徳島	西南の役 陣中の作	

73	瓜生節子	千葉	壇の浦を過ぐ	
74	鈴野七郎	神奈川	夏日悟空上人の院に題するの詩	
75	品田央子	道央	佳賓好主	
76	中峰子	大阪	重ねて楓橋に宿す	
77	宮嶋博美	富山	壇の浦を過ぐ	
78	岡早苗	愛媛	壇の浦を過ぐ	
79	星名美知子	茨城	時に憩う	
80	藤本清美	大分	壇の浦を過ぐ	

81	古川博輝	長崎	夏日悟空上人の院に題するの詩	
82	圖子美知代	香川	従軍行	
83	中野澄子	広島	佳賓好主	
84	堀井勲	香川	西南の役 陣中の作	
85	武田稔	新潟	西南の役 陣中の作	
86	山口正恵	大阪	佳賓好主	
87	佐瀬錦子	福岡	西南の役 陣中の作	
88	大岩孝子	広島	壇の浦を過ぐ	

令和六年度・全国吟詠コンクール決勝大会・出場者区分表								
地区別	資格区分	幼年	少年	青年	一般一部	一般二部	一般三部	合 計
	12歳未満	18歳未満以上	35歳未満以上	55歳未満以上	75歳未満以上	75歳以上		
北海道	1	1	0	0	2	2	6	
東 北	1	1	1	1	2	2	8	
東日本	2	2	2	4	5	7	22	
中 部	1	2	2	3	6	8	22	
近 畿	2	3	4	5	6	8	28	
中 国	2	2	2	3	6	6	21	
四 国	1	2	1	2	7	8	21	
九 州	2	3	3	4	8	5	25	
計	12	16	15	22	42	46	153	
入 賞	5位	5位	7位	8位	9位	10位		

〈一般三部〉
一位 文部科学大臣賞・会長賞・金メダル・民放杯
二位 会長賞・銀メダル
三位 会長賞・銅メダル
四位～十位 会長賞
また、各部優勝者の内から、最優秀者に高松宮妃記念杯を授与する。

49	48	47	46	45	44	〈一般一部〉		43
中澤 宏	山田 美和	辻 寛子	阿部 香織	川口 和典	原 奈緒子			尾崎 莉於
茨城	広島	神奈川	東京	福岡	三重			大阪
時に憩う	壇の浦を過ぐ	従軍行	佳賓好主	重ねて楓橋に宿す	大楠公			峨眉山月の歌
57	56	55	54	53	52	51	50	
塩谷 優香	上野 佳香	小藤 千枝	佐藤 仁美	吉澤 純子	徳安 秀作	久保田 明理	上村 善子	
愛知	大分	広島	新潟	東京	福岡	奈良	兵庫	
壇の浦を過ぐ	壇の浦を過ぐ	峨眉山月の歌	夏日悟空上人の院に題するの詩	絶句 (江碧にして)	時に憩う	佳賓好主	重ねて楓橋に宿す	
65	64	63	62	61	60	59	58	
井戸 隆裕	高木 恵美子	稲垣 亜子	鷺見 稔子	田中 達也	荒谷 早智子	松本 亜矢子	原田 潤一郎	
大阪	山口	大阪	京都	香川	愛知	福岡	徳島	
従軍行	壇の浦を過ぐ	西南の役 陣中の作	峨眉山月の歌	夏日悟空上人の院に題するの詩	壇の浦を過ぐ	佳賓好主	大楠公	

◎コンクール出場者氏名

＜幼年の部＞

出演順	氏名	推薦	演題	成績
1	井川 駿	広島	富士山	
2	天野 永翔	愛知	富士山	
3	佐藤 琳	大分	菊花	
4	大沼 愛李	山形	富士山	
5	阿部 楓生	東京	江南の春	

6	小林千代理	道央	偶成	
7	河野桃李	大阪	富士山	
8	山根 花	岡山	富士山	
9	遠山 凜香	東京	江南の春	
10	マリック ソフィア和桜	熊本	江南の春	
11	谷 奏磨	徳島	江南の春	
12	高橋 拓来	京都	弘道館に 梅花を賞す	

＜少年の部＞

13	加藤 遙真	道央	菊花	
14	栗林 祐希	京都	江南の春	
15	岩田 衣知	大阪	九月十日	
16	濱中 悠太郎	熊本	弘道館に 梅花を賞す	
17	西部 和華	岐阜	菊花	
18	三浦 美結	東京	早に白帝城 を發す	
19	永田 菜桜	愛知	江南の春	

＜青年の部＞

20	阿部 尊生	東京	偶成	
21	板東 晴音	徳島	桂林莊雄詠暗生 に示す(その二)	
22	有田 美優	広島	江南の春	
23	小藤 侑梨乃	広島	早に白帝城 を發す	
24	宿利 実生	福岡	山行同志に示す	
25	田村 冴子	青森	偶成	
26	木山 咲良	兵庫	富士山	
27	生越 結衣	徳島	江南の春	

28	原田 愛子	大分	九月十日	
29	平岡 朋子	広島	佳賓好主	
30	甲斐 七菜子	大分	壇の浦を過ぐ	
31	小早川 麻衣	京都	峨眉山月の歌	
32	原 光希	兵庫	従軍行	
33	藤吉 瑞季	大分	西南の役 陣中の作	
34	下北 祥子	兵庫	佳賓好主	

35	後藤 啓佑	三重	西南の役 陣中の作	
36	鈴木 愛琉	群馬	壇の浦を過ぐ	
37	平岡 大輝	広島	西南の役 陣中の作	
38	若月 武紘	岩手	大楠 公	
39	森田 晃代	宮崎	佳賓好主	
40	森岡 梓	愛媛	佳賓好主	
41	相澤 侑我	神奈川	壇の浦を過ぐ	
42	大野 統也	愛知	壇の浦を過ぐ	